

膿瘍



① 腫れがひどくなると表面が脱毛して壊死します



② 切開して膿を出して治療します。

膿瘍とは傷などから細菌が入り込み、局所的に膿がたまった状態です。ウサギでは歯が原因のものや皮膚の傷などが原因でそこから細菌が入り込んだものが主によくみられます。ウサギの膿はチーズ状で痛みを伴わないことが多いです。治療としてははれている部分を切開して膿を出し②、消毒薬などで洗浄します。そして抗生物質を投与し治療していきます。歯が原因の膿瘍では膿を出しても抗生物質を投与してもなかなか治りにくいことが多いです。

症状

膿の貯留に伴って患部がはれてきます。歯が原因の時は眼の下やあごがはれてきます。ケンカによるケガの場合は噛まれた箇所がはれてきます。

はれがひどくなれば、毛が抜けて皮膚の表面が黒く壊死することもあります①。

学校でのケア

動物病院で患部を切開して膿を出してもらったのち、学校では膿が出てきたらティッシュやコットン

で取り去り開口部を消毒します。また処方された抗生物質を飲ませましょう。

学校での注意事項

歯が伸びすぎていないか、食欲は落ちていないか、口の周りが汚れていないかなど日々注意して観察してください。

目の下や顎の下などの部分的にはれていたなら治療を受けてください。

キーワード：歯科疾患、創傷感染、細菌感染